

令和7年度
すくわくプログラム活動報告書
(実施対象：1歳児クラス)

モニカ三軒茶屋園

M  nica

テーマ

土と水

設定理由

砂や水、泥などの自然物に触れることを通して様々な感覚を使いながら遊びを広げていた。また、小川を見つけると草花を摘み取り、そっと水面に浮かべ流れていく様子をじっと見つめ、自分なりに確かめようとしていた。

土に触れる中で、水をかけたときの土の変化や、泥の感触に強い興味を示す姿が見られたことから土と水の関係性をテーマにすることにした。

対象クラス

1歳児クラス・7名

活動のねらい

土や水などの自然素材に触れ、感触や変化を楽しむ

キーワード

「水をいれたらどうなるかな？」
「さわるとどう？」

活動期間

令和7年5月～9月

活動回数

計4回

活動①

赤土・黒土に触れる

問 い

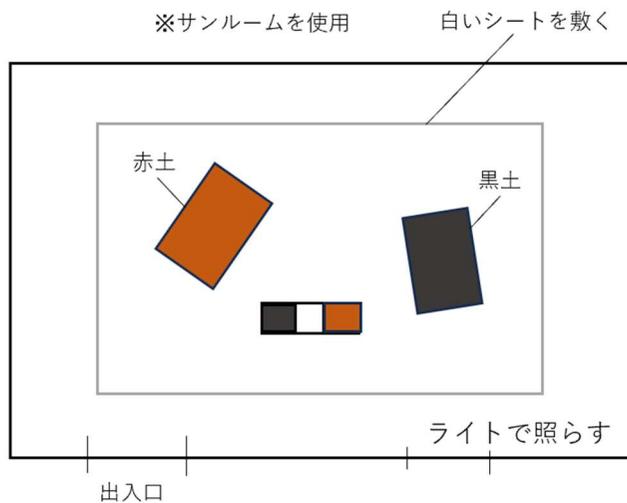
「どんな色してる？」 「混ぜたらどうなるかな？」

準備物

白いシート(大) | 赤土 | 黒土 | 透明容器 小(2) | 三連アクリルボックス(1) | クリップライト(1)

環境構成

- 赤土、黒土、培養土をそれぞれ透明容器に入れる。
- 白いシートの上に置き、上からライトで照らす。
- 触れたり混ぜたりしながら土と触れ合う。



土と水

テーマを設定する

戸外で土に触れる中で土の感触に興味を示していた姿から、土や水などの自然素材に触れ、感触の違いを試し変化を味わえるようにする為。

活動① ～赤土・黒土に触れる～

「どんな色してる?」「混ぜたらどうなるかな?」という問いをもとに、室内で赤土と黒土に触れる。

環境をデザインする

●準備したもの

- ・白いシート、赤土、黒土、透明容器2、三連アクリルボックス1、クリップライト1
- ・白いシートの上に土を置き目立たせ、ライトで照らし土の色を際立たせる

事前の試し

- ・土の種類ごとの特徴を把握する
- ・土の周りに照明のスポットを当て、気づいて欲しい点に光が当たるよう少し暗めにする

探究活動を実践する

●活動内容

赤土と黒土を比較し、触れてみる。

●子どもたちの様子

「混ぜたらどうなるかな?」「どんな色になった?」という問いに対して、

- ・「くろいね」「あか」と色の違いに気づく
- ・「ダンゴムシさんいるかな?」と戸外で出会った土の中の生き物を連想し探し始める
- ・土を混ぜる、握る、落とす
- ・手についた土に気づき、驚いた表情を浮かべる



振り返りをふまえた気づき

初めは慎重に指先で触れながら様子を伺っていたが、黒土のしっとりとした感触を手のひらで握ってみたり、サラサラとした手触りの赤土を上から落としてみたりして素材を試して感触の違いを味わうが見られた。触れていくうちに偶然混ざった赤土と黒土の変化を見て不思議そうにする姿も見られた。戸外で土の中に虫を見つけた経験から、「ダンゴ虫さんいるかな？」と想像を膨らませて遊ぶ子どもの姿も見られた。

赤土・黒土ってなあに？

ある日、プランターの土を葉っぱの上に乗せてみたり、土の上を指でなぞってみたり・・・

『土』の存在に気が付き、触れ合う姿がありました。

土にもたくさんの種類があって、それぞれ特徴が違う土の面白さをさらに感じて欲しい

そんな思いから、赤土と黒土を用意してみました。

赤土のサラサラとした感触、黒土の少ししっとりとした感触に触れ、少しずつ土に魅了されていきます。



すると、「ダンゴムシさんいるかな？」と探し始めた子どもたち。

戸外での経験にも結び付けて遊びを展開していく姿は印象的でした。

経験からまた新たな発見へ、子どもたちの探究が始まります。

活動②

土と水に触れる

問 い

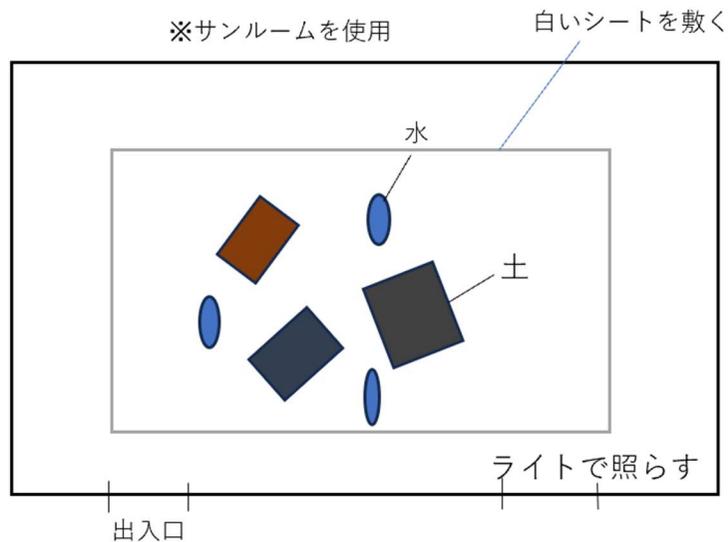
「やわらかい？かたい？」 「どんどんかわっていくね」

準備物

白いシート大(1) | 赤土 | 黒土 | 培養土 | 透明容器・大(1) | 透明容器・小(2)
三連アクリルボックス(1) | ペットボトル(3) | 透明カップ(2) | クリップライト(1)

環境構成

- それぞれ土を透明容器に入れて白いシートの上に置く。
- 土の近くに水を置き、上からライトで照らす。
- 自分たちで水を入れ、感触の違いを味わう。



土と水

活動② ～土と水に触れる～

「やわらかい？かたい？」「どんどん変わっていくね」という問いをもとに、自分たちで土に少しずつ水を加えて感触や変化に気づく。

環境をデザインする

●準備したもの

- ・白いシート、赤土、黒土、培養土、透明容器大小、三連アクリルボックス、ペットボトル、透明カップ、クリップライト
- ・白いシートの上に土と水を置き目立たせ、ライトで照らす。

事前の試し

- ・子どもが立って遊ぶかしゃがむか、動きやすさを考慮して導線を確保する。
- ・実際に触れてみて、土と水の混ざり具合、触感や反応の確認を行う。

探究活動を実践する

●活動内容

まずは土そのものに触れたあと、徐々に自分たちで水を入れ、感触の変化を味わう。

●子どもたちの様子

「やわらかい？かたい？」「どんどん変わっていくね」という問いに対して、

- ・泥になった土を上から垂らしながら「どろどろ～」と表現する姿
- ・指先で床についた土をなぞってみる
- ・手についた土を見て不思議さを感じているようだった
- ・水を入れたあとの土を混ぜたり、叩いたりする姿
- ・固まった土で形作り、食べ物に見立てて遊ぶ子どももいた



振り返りをふまえた気づき

初めはサラサラだった土に子どもたち自身で少しずつ水を加えることで変化していく感触の違いに夢中になって触れ合う姿が見られた。水を加えたことで泥になった土が、手につき黒くなると驚いた表情を浮かべ、繰り返し手を握ったり開いたりしながら不思議さを味わっていた。また、

水を加え土が固まってくると、アイスクリームやケーキに見立てて形作り、想像を膨らませて遊ぶ姿が見られた。どろどろの感触を楽しむ子、形作って遊ぶ子など様々だった為、今度は形つくることをメインにして行っていきたい。

水を入れてみたら？



土そのものに触れて、土への興味が広がりました。
今回は、水を用意し自分たちで水を加えられる
環境をセットアップ。

徐々に変わる土の感触に…

上から垂らして「どろどろ～」

指先で土を伸ばしてみる

(土の塊ができると)「アイスクリームです」

土の柔らかさ、硬さ、変化に
どんどん引き込まれていきます。

活動③

土粘土に触れる

問 い

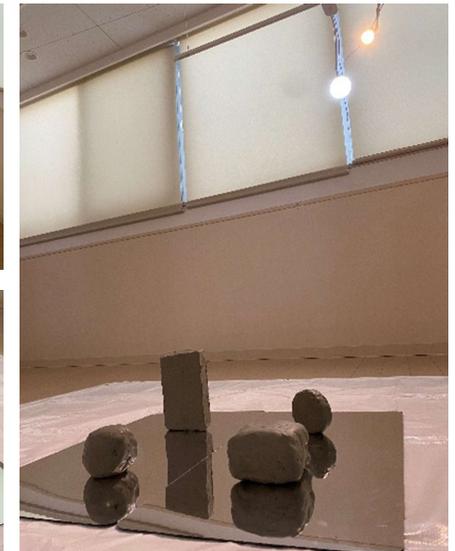
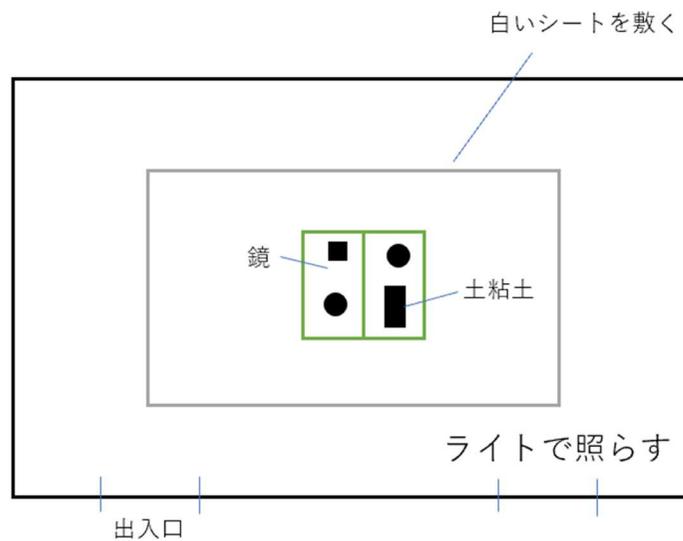
「こっちはどう見える？」 「触るとどう？」

準備物

土粘土 | 鏡(2) | 白いシート(大) | クリップライト(2)

環境構成

- サンプルームで照明を薄暗くし、ロールカーテンを下げる。
 - 丸や正方形、長方形に成型した土粘土の塊を4つ鏡の上に置く。
 - 3グループに分かれ、観察したり触れたりする。
- ※各グループごとにセットアップをし直す。



土と水

活動③ ～土粘土に触れる～

「こっちはどう見える？」「触るとどう？」という問いをもとに、特別な雰囲気の中で土粘土に触れる。

環境をデザインする

●準備したもの

- ・ 白いシート、鏡×2、土粘土、クリップライト×2
- ・ 白いシートの上に鏡を置き、その上に土粘土を置き、ライトで照らす。

事前の試し

- ・ ちぎる・丸める・叩く等色々な触り方でどう変わるか試す。
- ・ 土粘土を置く高さや広さ、素材を確認。床が滑りやすいかも確認しておく。

探究活動を実践する

●活動内容

鏡を用いて、様々な角度から観察しながら土粘土に触れる。

●子どもたちの様子

「こっちはどう見える？」「触るとどう？」という問いに対して、

- ・ 低い姿勢から鏡の中を覗き込む
- ・ 土粘土の塊に両足で乗ってみる
- ・ 「ころころ～」 「どーん」と転がす・投げる・落とす
- ・ 「ドアあきますか？」と見立てて関わる
- ・ ”固い” ”重い”に気づく

〈環境構成〉

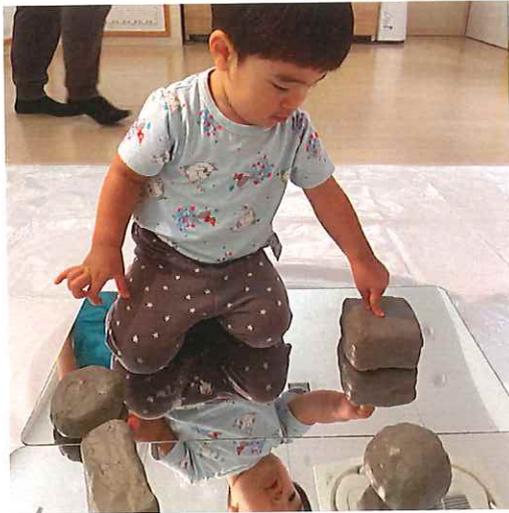


振り返りをふまえた気づき

いつもとは違う特別な雰囲気、**「うわぁ〜！」**と目を輝かせて始まった。鏡の上に置いた為、様々な角度から観察するかと予想していたが、実際は鏡よりも土粘土そのものに魅了されている様子で鏡に気づく子どもは少数派だった。土粘土を持ち上げて投げたり、上に乗ってみたりと全身を使ってダイナミックに遊ぶ姿も見られた。後半になると、**「いちごアイスです」「ドアが開くかな？」**と丸めたりちぎったりしながら見立て遊びになり、創造しながら自分なりの表現で夢中に遊び込んでいた。今回、特別な土粘土に焦点を当てるためスポットライトを使用した**が**、普段使用していなかった為か、ライトの方に興味が行ってしまう姿があったので環境は見直していきたい。

想像の扉

最初は手のひらで押したり、足で踏んだり、両手で持ちながら歩き回ってみたり。
子どもたちは、土粘土のかたさや重さをじっくりと感じていました。



ちぎって丸めた粘土は、「いちごケーキ」や「電車」へと姿を変え、
形と意味を自由に行き来します。

手の中で粘土は、“ただの素材”ではなく、物語を語る存在になっていきました。

やがて、土粘土の塊の表面をちぎりながら——
「ドアが開きます。」
という声が聞こえてきました。

その言葉とともに、かたい粘土を力強くちぎって、
何かの入り口をつくり出していきます。

扉の向こうに広がっていたのは、
ひとつの想像がつくり出した空間。
自分の手で扉を開き、確かにその中へと入っていったのです。



土粘土という素材と出会い、触れ、試す中で、
子どもたちは想像の力を羽ばたかせ、自分だけの世界を生み出していました。

活動④

自分の感じた『泥と水の世界』を表現する

問 い

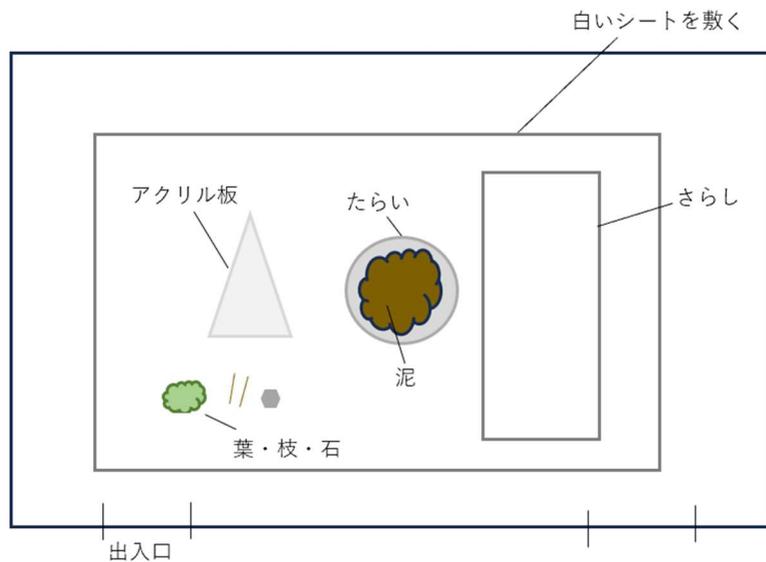
「どろどろしているね、どんな感じ？」 「手で伸ばしたらどうなるかな？」

準備物

泥 | さらし | アクリル板 | 葉 | 枝 | 石 | 白シート(大) | たらい

環境構成

- 泥をキャンバス(さらし、アクリル板)に垂らしたり手で伸ばしたりしながら描く。
 - 葉や枝、石も加えて自然の作品を作る。
 - 霧吹きで水を加えて「動き」「混ざり」を試す。
- ※たらいの中に予め作った泥を入れ中央に置く。室内のライトはオレンジにし薄暗い雰囲気を作る。



土と水

活動③ ～泥を使って表現する～

「どろどろしているね、どんな感じ?」「手で伸ばしたらどうなるかな?」という問いをもとに、自分の感じた土と水の世界を表現してみる。

環境をデザインする

●準備したもの

- ・ 白いシート、泥、さらし、アクリル板、葉・枝・石、たらい
- ・ タライの中に予め作った泥を入れておく。
- ・ 室内のライトはオレンジで薄暗い雰囲気を作る。

事前の試し

- ・ 泥の濃度や描きやすさを確認しておく。
- ・ アクリル板や布の設置角度、固定の仕方、汚れ対策を行う。

探究活動を実践する

●活動内容

泥を使って「動き」や「混ざり」を試し、自分なりに表現する。

●子どもたちの様子

「ながれたね」「うごいてるよ」という問いに対して、

- ・ 「ドロドロ～」と声を出して泥を表現する姿
- ・ 石や枝を泥につけて描く
- ・ 泥を指先でなぞる、手のひらで広げる
- ・ 葉や石、枝を泥の中に入れて混ぜる
- ・ 泥で黒くなった手を不思議そうに見つめる姿

〈環境構成〉



振り返りをふまえた気づき

泥で手が黒く染まると不思議そうな表情を浮かべ自分の手を見つめる姿が見られた。石や枝を泥の中に入れて混ぜたり、泥の付いた石で描こうとする姿も見られた。白いシートの上に泥が付くと指先でなぞり線を描く子もいた。手が汚れることが苦手な泥には触れようとしない子どももあり、葉や石を拾って素材と触れ合っていた。霧吹きは子どもが使用すること自体が難しかったり、霧吹き単体に興味がいつてしまう姿が見られた為、今回は使用しなかった。アクリル板に泥が付きにくく、泥の流れや動きへの着目が薄くなってしまった為、事前に確認しておくべきだった。

泥と手の対話

泥と手。

その出会い方は子どもによって異なっていました。

手いっぱい泥を掴み、布の上に広げる子ども

一方では手に泥がつかないように、石や葉っぱを手のかわりにして描く子ども

黒くなった自分の手に気づき、スタンプのように押し付けて形を残す子ども



対話のしかた、アプローチ方法は様々です。
言葉は無くとも手の動き、視線、表情で
泥との関係性が伺えます。

手は描く道具にもなり、
泥との距離をつくることもでき、
自分だけの表現を見つけることもできる、
探究を繋ぐものです。

これからもたくさんの本物に触れ、その手で
たくさんの出会いを重ねていくことでしょう。



使用物

赤土 | 黒土 | 培養土 | 水 | 小石 | 葉 | 白い布 | アクリル板 | じょうろ | 透明カップ
たらい | 白いシート大 | 土粘土 | 鏡大(2) | 絵本『どろんこ』

終



株式会社モニカ

〒105-0004
東京都港区新橋1-9-5 KDX新橋駅前ビル 3F
TEL:03-6661-2466
FAX:03-6661-2467

モニカ三軒茶屋園

〒154-0011
東京都世田谷区上馬1-17-10-2階
TEL:03-6450-8402
FAX:03-6450-8403